

8.1.17 交通渋滞

(1) 調査事項

調査事項は、表 8.1.17-1(1)及び(2)に示すとおりである。

表 8.1.17-1(1) 調査事項(東京 2020 大会の開催中)

区 分	調査事項
予測した事項	・大会開催中の交通の状況
予測条件の状況	・東京都等の計画や取組状況
ミティゲーションの実施状況	<p>[輸送計画全般に係る取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会開催中の選手等の関係者輸送ルートを設定する。設定に当たっての基本コンセプトは以下の3点である。関係者輸送ルートを設定することにより大会関係車両の安全、円滑、迅速な輸送サービスを提供するとともに、大会関係車両が一般車両に混入することによる交通渋滞の低減を図る。 <ol style="list-style-type: none"> ①安全性、定時性を考慮し、信号交差点がなく一般道に比べ事故率も低い高速道路を主として設定する。 ②一般道においては、交通容量の大きい4車線以上の道路を優先して選定する。 ③最寄りとなる高速道路出入口から競技会場までを最短距離で結ぶ経路を設定する。 ・観客、会場スタッフの移動には、公共交通機関（鉄道、バス等）を最大限活用することにより、小型車両での分散した移動を抑制するほか、競技会場からの徒歩圏内に鉄道駅がない、もしくは同鉄道駅のみでは、来場が想定される観客数に対応が困難な競技会場¹では、近隣駅からのシャトルバスの運行により観客を円滑に輸送する。 ・組織委員会は、大会関係者や観客・大会スタッフの安全で円滑な輸送を実現するための総合調整の役割を果たす輸送センターを設置し、東京都をはじめ交通管理者、道路管理者、交通事業者等とも連携し、円滑な輸送の実現を目指すほか、混雑回避へ向けて広報を行う。 ・東京 2020 大会開催中は、交通需要マネジメント（TDM）のほか、TDM の効果等を踏まえ、状況に応じた段階的・局所的な交通システムマネジメント（TSM）を計画・実施する。交通システムマネジメント（TSM）は、オリンピック・ルート・ネットワーク（ORN）/パラリンピック・ルート・ネットワーク（PRN）の円滑な交通状況を維持するため、レギュラー時、イレギュラー時のそれぞれの状況に応じて高速道路及び一般道において適切な交通対策を行う。 ・東京 2020 大会開催中の交通混雑緩和に向けた取組を総合的にテストするため、2019 年(令和元年)7月22日(月)から9月6日(金)に交通需要マネジメント（TDM）や交通システムマネジメント（TSM）を試行した。試行の結果、TDMによる更なる交通量低減と追加対策として首都高の料金施策による交通需要調整を行う。 ・競技会場周辺には、トラフィックペリメーター（境界）を設定し、一般交通の通過交通の進入を抑制するため、一般車両の迂回道路として、トラフィックペリメーター外側の幹線道路を設定する。トラフィックペリメーターについては、事前にホームページに掲載するほか、競技会場周辺へのチラシポスティングにより事前周知を図る。また、迂回道路となる幹線道路上の歩道橋に横断幕の設置や、既存の交通情報板から情報発信を行い、広域的に車両の迂回を促すとともに、円滑な一般車両の誘導のため、迂回案内看板や必要に応じ交通誘導員等を配置する。 ・デポ等における大会関係車両の出入口には交通整理員を配置し、周辺交通流への影響低減を図る。 <p>[個別競技会場周辺での取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技会場周辺の道路が、交通容量の小さい2車線道路が多い馬事公苑については、シャトルバスによる観客の輸送を計画している。 ・大会期間中は、競技会場内外の車両動線や乗降場、駐車場において、誘導員を配置するとともに、サイン等を設置し、大会関係車両へ分かりやすい案内・誘導を行い、周辺交通流への影響低減を図る。

1 馬事公苑、東京スタジアム、海の森クロスカントリーコース、海の森水上競技場、釣ヶ崎海岸サーフィンビーチ、陸上自衛隊朝霞訓練場、霞ヶ関カンツリー倶楽部、埼玉スタジアム 2002、伊豆ベロドローム、伊豆マウンテンバイクコース、富士スピードウェイ、札幌ドーム、宮城スタジアム、福島あずま球場、茨城カシマスタジアム

表 8.1.17-1(2) 調査事項(東京 2020 大会の開催中)

区 分	調査事項
ミティゲーションの実施状況(つづき)	<p>[その他の取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> 大会時の交通状況についての理解や混雑回避に向けた確実な準備の実施を促すため、交通需要マネジメント(TDM)推進に向けた全体説明会・重点取組地区の地区別説明会、業界団体等説明会、イベントにおける情報発信を行い、多様な手段を用いて十分な周知を進めている。また、テレワーク導入等に関するコンサルタントによる無料相談等を実施している。また、各企業での「2020 アクションプラン」の作成を支援するため、「アクションプラン作成支援の簡易ツール」と「TDM ハンドブック」(令和元年7月 2020TDM 推進プロジェクト運営事務局)を提供している。 快適な通勤環境や企業の生産性の向上を図る新しいワークスタイルや企業活動の東京モデルを「スムーズBiz」とし、全ての人々がいきいきと働き、活躍できる社会の実現に向け、東京 2020 大会の交通混雑緩和に向けた交通需要マネジメント(TDM)とテレワーク、時差Bizなどの一体的な取組の推進を目指して、東京都と組織委員会が連携して企業・個人に「スムーズBiz」を働きかけている。 大会本番となる 2021 年(令和 3 年)夏の期間における、物流の効率化、配送ルートの変更、荷さばき時間帯の変更など効率的な物流につながる取組を、東京都と組織委員会が連携して企業に働きかけている。 大会開催中の交通混雑緩和に向けた都庁自らの取組として、「都庁 2020 アクションプラン」に基づき、年休・夏休の計画的取得、時差出勤・フレックスタイム・テレワークの実施、庁有車利用の抑制、都庁発注工事の調整等を行う。また、最重点取組として、2019 年(令和元年)夏季より、都庁完全オフピークの実施、出勤者の徹底抑制、本庁職員全員のテレワークの実施を行う。 2019 年(令和元年)夏には、「都庁 2020 アクションプラン」の取組を大会時を想定して試行し、試行結果を踏まえ、東京 2020 大会期間中の交通混雑緩和に向けた「都庁 2020 アクションプラン」を更新した。

(2) 調査地域

調査地域は、大会開催中の関係者輸送ルート及びその周辺の範囲とした。

(3) 調査手法

調査手法は、表 8.1.17-2 に示すとおりである。

表 8.1.17-2 調査手法(東京 2020 大会の開催中)

調査事項	大会開催中の交通の状況	
調査時点	開催中のほか、開催準備期間中の適宜とした。	
調査期間	予測した事項	開催中とした。
	予測条件の状況	開催中のほか、開催準備期間中とした。
	ミティゲーションの実施状況	開催中のほか、開催準備期間中とした。
調査地点	予測した事項	大会開催中の関係者輸送ルート及びその周辺の範囲とした。
	予測条件の状況	大会開催中の関係者輸送ルート及びその周辺の範囲とした。
	ミティゲーションの実施状況	大会開催中の関係者輸送ルート及びその周辺の範囲とした。
調査手法	予測した事項	「大会期間中の交通動向分析」等の関連資料の整理による方法とした。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び「東京2020大会の交通マネジメントに関する提言と解説」(東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ)等の関連資料の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び「東京2020大会振り返り」(令和3年12月 組織委員会)等の関連資料の整理による方法とした。

(4) 調査結果

1) 調査結果の内容

ア. 予測した事項

(ア) 大会開催中の交通の状況

大会期間中における広域の交通量の状況は、表 8.1.17-3 及び図 8.1.17-1 に示すとおりである。

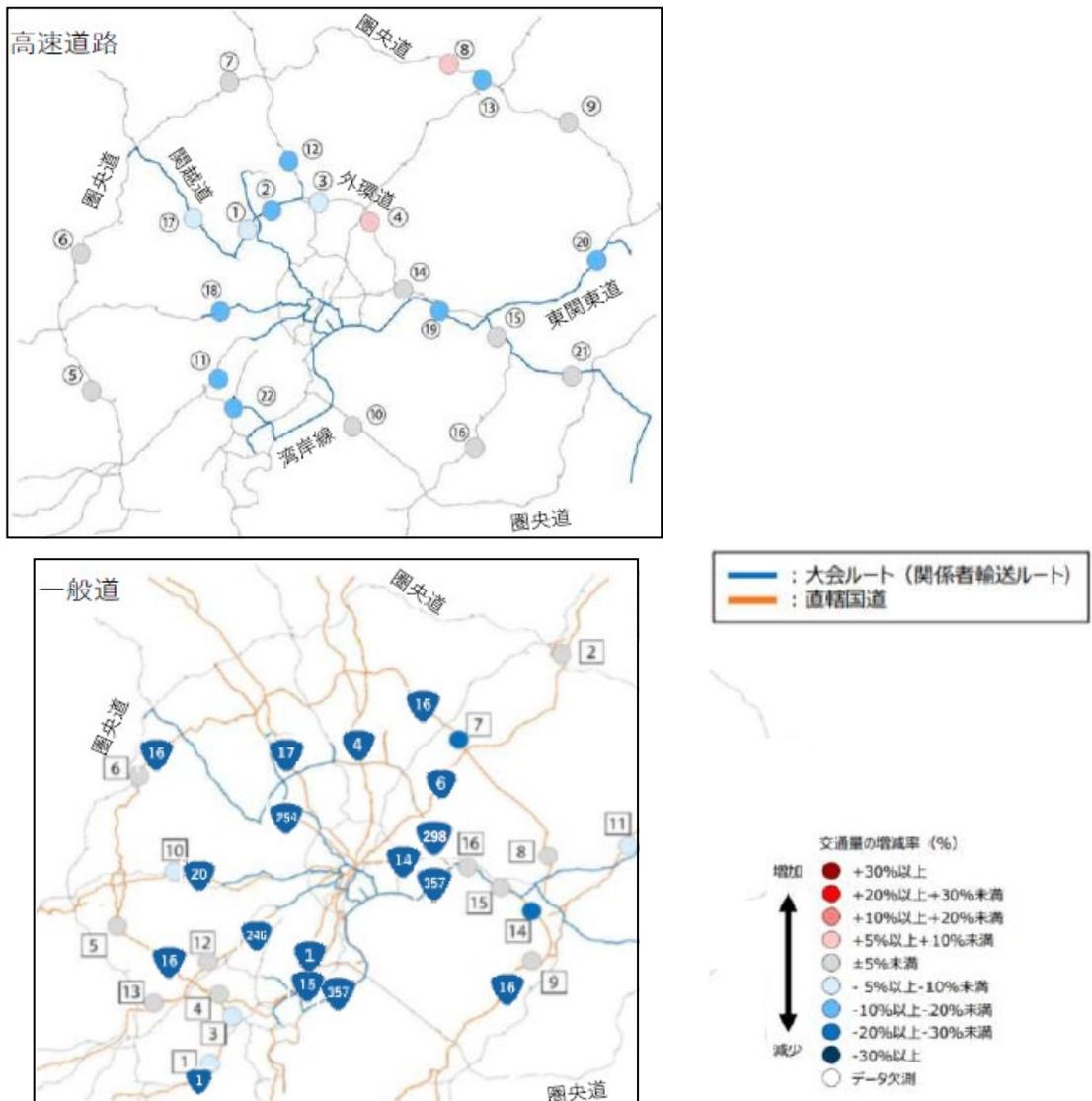
高速道路及び一般道の代表断面合計（全日平均）で、高速道路が 13%の減少、一般道が 6%の減少となった。

表 8.1.17-3 圏央道～外環における代表断面の合計交通量の増減率
(交通対策実施期間中と 2018 年同時期の比較)

	高速道路	一般道
平日平均	-8%	-4%
休日平均	-20%	-10%
全日平均	-13%	-6%

※交通対策実施期間は 7/19～8/9、8/24～9/5
 ※交通量は上下及び 24 時間の合計
 ※代表断面：高速トラカン(NEXCO) 22 箇所(下図上段丸数字)、直轄トラカン 16 箇所(下図下段四角数字)
 ※2018 年同時期とは、2018 年同月同曜日の平均値を用いている
 ※交通量は、速報値(トラカン等による計測)
 ※データ欠測が生じた区間の値は合計に含まない
 ※2018 年は現状ネットワークと一部異なる

出典：「大会期間中の交通動向分析」(令和 3 年 9 月 29 日第 16 回輸送連絡調整会議資料)



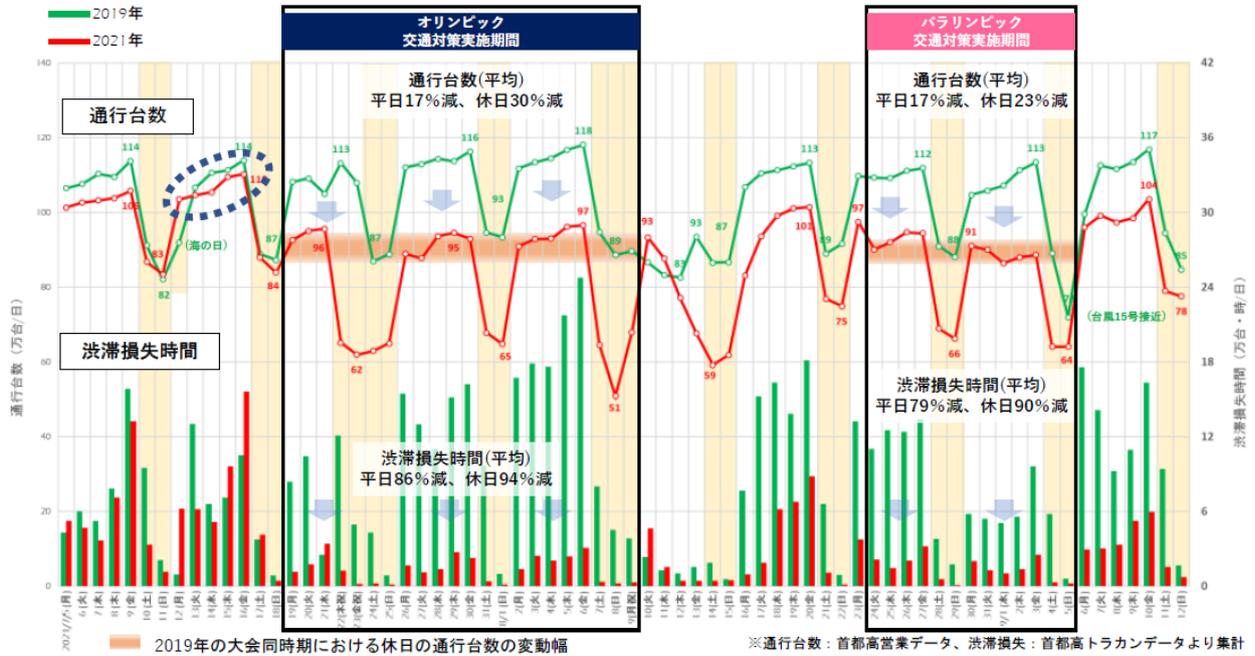
出典：「大会期間中の交通動向分析」(令和 3 年 9 月 29 日第 16 回輸送連絡調整会議資料)

図 8.1.17-1 各断面の増減率 (2021 年 7 月 30 日(金)の例)

大会期間中における首都高の通行台数と渋滞の状況は、図 8.1.17-2 に示すとおりである。

通行台数について、大会直前は 2019 年（令和元年）と同程度で推移していたが、大会期間中は 2019 年（令和元年）比で平日は約 2 割減少していた。

大会期間中の渋滞損失時間については、2019 年（令和元年）と比較して、平日で約 8 割の減少がみられた。



出典：「大会期間中の交通動向分析」（令和3年9月29日第16回輸送連絡調整会議資料）

図 8.1.17-2 大会期間中における首都高の通行台数と渋滞状況

高速道路では、関係者輸送ルートの手滑り確保のため、TSMによる交通対策を実施した。実施例としては、朝のピーク時で、調布 IC 手前、外環道(内回り)戸田東 IC 手前での本線車線規制等、夕方のピーク時で、外環道(外回り)の戸田東 IC、外環浦和 IC、大泉 IC の入口閉鎖等であった。

一方で、本線料金所通行制限や JCT 方向別規制、本線車線規制の実施箇所周辺で渋滞の発生がみられた（図 8.1.17-3 参照）。

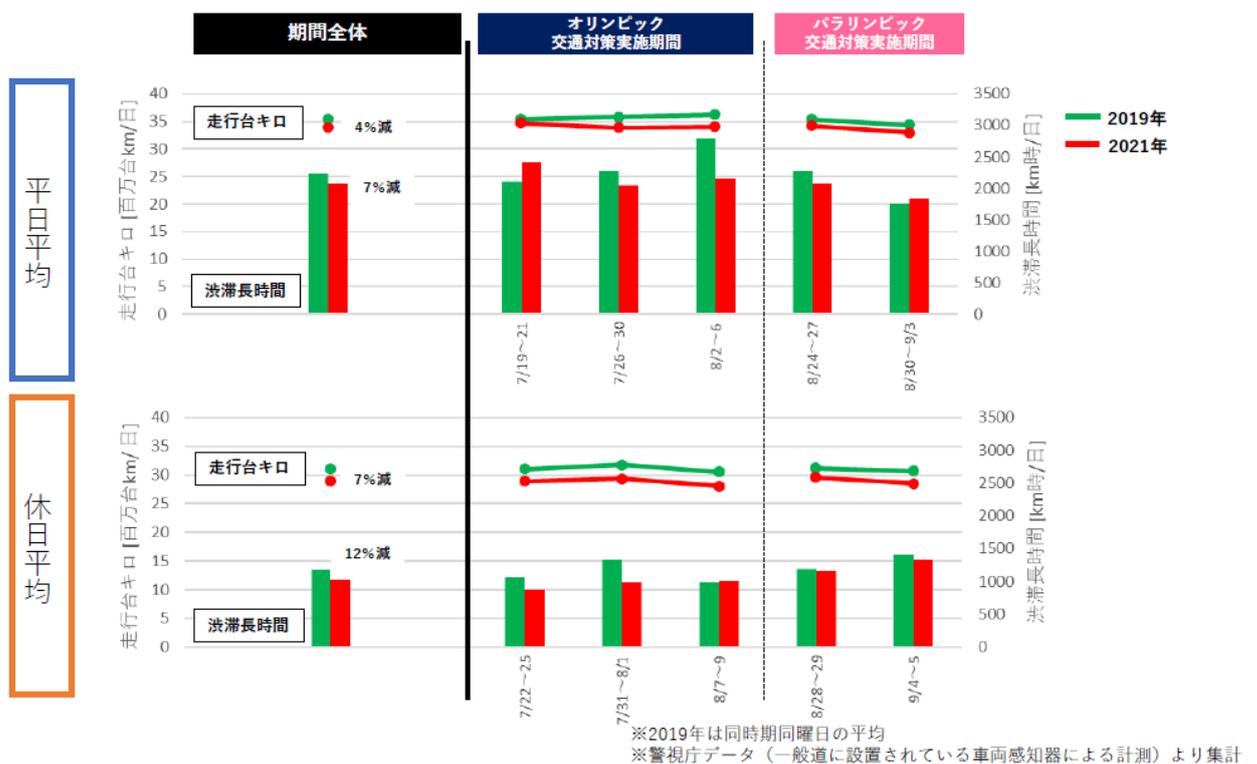


出典：「大会期間中の交通動向分析」（令和3年9月29日第16回輸送連絡調整会議 東京都）
 「道路交通情報 Now!!」（公益財団法人日本道路交通情報センター）
<https://www.jartic.or.jp>

図 8.1.17-3 大会期間中における渋滞の状況（高速道路）

大会期間中における一般道の交通量と渋滞の状況は、図 8.1.17-4 に示すとおりである。

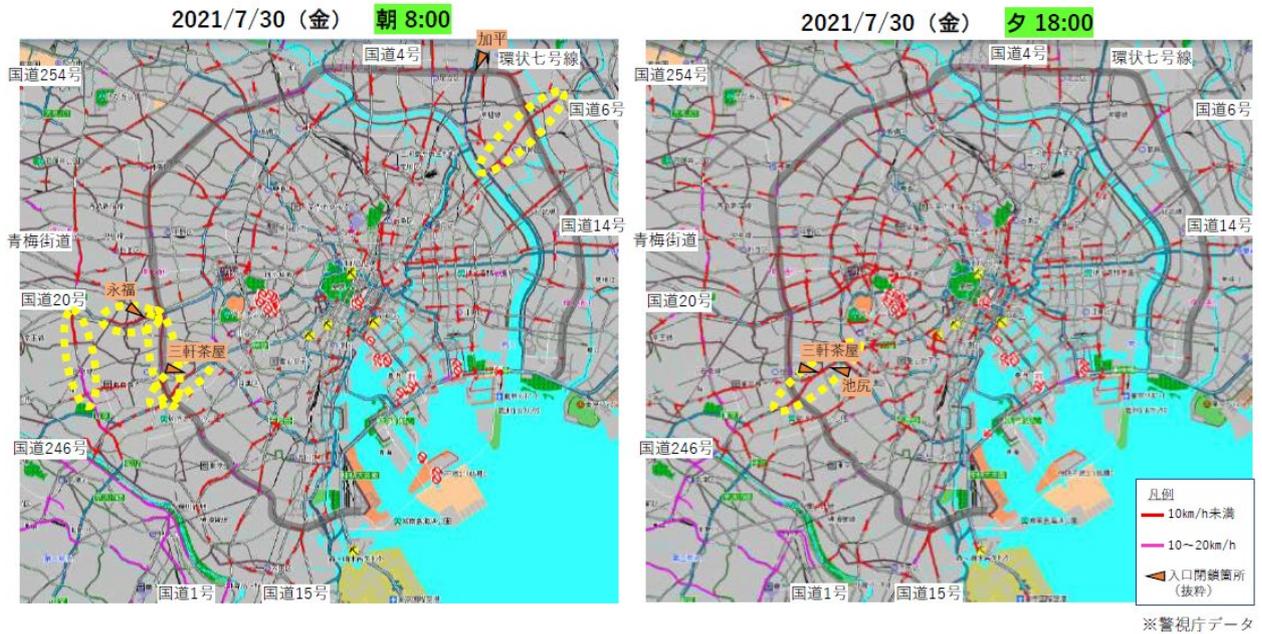
走行台キロ（交通量）、渋滞長時間ともに、2019年（令和元年）と比較して減少する傾向がみられた。



出典：「大会期間中の交通動向分析」（令和3年9月29日第16回輸送連絡調整会議資料）

図 8.1.17-4 大会期間中における一般道の交通量と渋滞の状況

一方で、朝夕ピークにおいて、首都高の入口閉鎖付近（国道 20 号、国道 246 号等）や、関係者輸送ルートを経回する道路（環状七号線、環状八号線等）など一部の区間で渋滞がみられた（図 8.1.17-5 参照）。



出典：「大会期間中の交通動向分析」（令和 3 年 9 月 29 日第 16 回輸送連絡調整会議資料）

図 8.1.17-5 大会期間中における渋滞の状況（一般道）

地方会場における輸送の取組は、表 8.1.17-4 に示すとおりである。

表 8.1.17-4 地方会場における輸送の取組

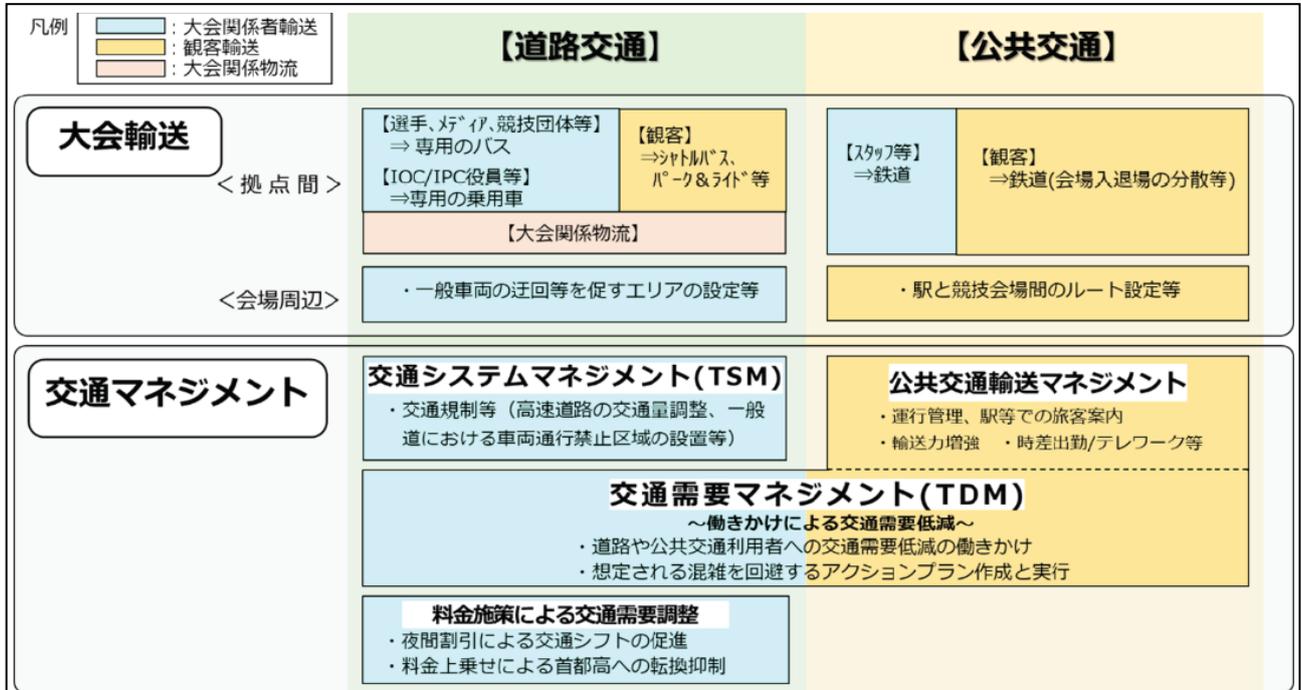
道県	取組の内容
1 北海道	・ マラソン・競歩に伴う交通規制の実施期間中、一部路線で混雑が見られたものの、全体的には、う回道路への交通転換がされるなど、大会期間を通じて、札幌市内では大規模な交通混雑はなく、安全かつ円滑な大会輸送を実現した。
2 宮城県	・ 宮城県、宮城県警、宮城県渋滞対策連絡協議会等と連携し、会場周辺の交通規制等を行うとともに、広報チラシの配布や道路情報板によるTDMの取り組みや広域的なう回案内を行った。その結果、仙台市内中心部や利府町内の会場周辺等、輸送ルートやバス乗降場において円滑な輸送が実現できた。 ・ また、観客輸送に関しては、数少ない観客の会場となったが、コロナ対策に万全を期し、観客を安全・円滑に輸送することができた。
3 福島県	・ 関係者輸送ルートについては、国・福島県・福島市と連携して、市内全域や商工会議所に広報チラシを配布するなどTDMの取り組みを行い、円滑な大会輸送を実現した。 ・ また、会場周辺及び福島駅周辺については、定時性の確保のため、福島県警と連携し、交通対策等を実施したため、混乱なく、円滑かつ安全な輸送が実現できた。
4 茨城県	・ 輸送ルート及び鹿嶋市内においては、臨海部の工業地帯を中心にTDMへの協力依頼及び県警と連携した会場周辺交通対策を行った効果もあり、大会期間中を通して大きな渋滞は生じなかった。そのため、選手バス等大会関係者車両については、遅延することなく、定時性を確保した円滑な輸送を行うことができた。
5 神奈川県	・ 国道134号の沿線自治体等に混雑緩和を呼びかける広報チラシの配布や道路看板等の広報の取組により、輸送ルートの混雑が緩和され、選手や大会関係者等を時間どおり円滑に輸送することができた。 ・ また、江の島会場周辺における交通規制をはじめとした各種対策の実施にあたっては、警察や関係機関と連携し、混乱なく、安全・円滑な輸送を行った。
6 静岡県	・ 伊豆スカイラインの無料化による交通の転換、関東方面を中心に混雑緩和を呼びかける広域的な広報の取組により、輸送ルートの混雑が緩和され、選手や大会関係者等を時間どおり円滑に輸送することができた。 ・ 観客シャトルバス利用駅周辺の交通規制により歩行者動線を確保するとともに、地域住民や企業の協力を得て駅周辺の混雑緩和に努め、観客を安全・円滑に輸送することができた。

出典：「大会輸送の実績（概要）」（令和 3 年 9 月 29 日第 16 回輸送連絡調整会議資料）

イ. 予測条件の状況

(ア) 東京都等の計画や取組状況

交通マネジメントの全体像は、図 8.1.17-6 に示すとおりであり、交通需要マネジメント (TDM)、交通システムマネジメント (TSM)、料金施策による交通需要調整 (首都高速道路) 等を実施した (表 8.1.17-5 参照)。



出典：「東京 2020 大会の交通マネジメントに関する提言と解説」(2022 年 2 月 28 日参照 東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ)
https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/0cf26fc8c4b157f0f62bdebedfa87a45_1.pdf

図 8.1.17-6 交通マネジメントの全体像

表 8.1.17-5 東京 2020 大会の交通対策 (例)

対策	項目	概要
交通需要マネジメント (TDM)	①2020TDM 推進プロジェクトの推進	経済界・業界団体等の多様な主体が一体となり、大会時の交通混雑緩和を目指す取組を推進(約 5 万社・910 団体で構成)
	②企業説明会の実施	説明会約 600 回、個別相談約 3,800 回 (WEB を含む) を実施し、人の流れや物の流れについて混雑回避の取組を呼びかけ
	③大会期間中の集中広報	交通混雑の緩和と感染拡大防止に向けた人流抑制など、多様なメディアによる集中的な広報を実施
	④2020 物流 TDM 実行協議会	WEB セミナー、コンサルティング、啓発グッズ等により、中小企業等の物流対策の取組を推進
交通システムマネジメント (TSM)	①高速道路の交通対策	本線料金所の通行制限や、交通状況に応じて入口閉鎖、本線車線規制、JCT 部での方向別規制を実施
	②一般道/競技会場周辺の交通対策	信号調整や駐車対策が一部で実施されたほか、進入禁止エリアや通行規制エリア、う回エリアを設置
	③関係者輸送ルート等の設定	大会期間中、選手などの大会関係者が利用する関係者輸送ルート(大会ルート、練習会場ルート、代替ルート)を設定
首都高速道路における料金施策	—	夜間の料金割引および日中時間帯の料金上乗せを実施

出典：「大会期間中の交通動向分析」(令和 3 年 9 月 29 日第 16 回輸送連絡調整会議資料)
 「協議会におけるこれまでの取組(実績)」(令和 3 年 11 月 1 日 2020 物流 TDM 実行協議会第 7 回総会資料)

東京圏の交通規制等の場所・実施期間は、表 8.1.17-6 に示すとおりである。

表 8.1.17-6 (1) 東京圏の交通規制等（東京圏共通：高速道路）

場所	規制等詳細情報	実施期間
東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県	TSM（交通システムマネジメント） 高速道路入口閉鎖等の交通規制	7/19～8/9、8/24～9/5
	首都高速道路の料金変更	7/19～8/9、8/24～9/5

出典：「交通規制等のお知らせ」（2021年9月6日参照 組織委員会ホームページ）

<https://olympics.com/tokyo-2020/ja/news/transportation-notice/#tokyoken>

表 8.1.17-6 (2) 東京圏の交通規制等（東京都）

場所	規制等詳細情報	実施期間
都内広域（区部）	開会式・閉会式に伴う交通規制	7/23、8/8、24、9/5
	トライアスロンコース	7/26、27、31、8/28、29
	マラソンコース（パラリンピック）	9/5
府中市、調布市、三鷹市、小金井市、稲城市、多摩市、八王子市、町田市	自転車ロードレースコース	7/24、25

出典：「交通規制等のお知らせ」（2021年9月6日参照 組織委員会ホームページ）

<https://olympics.com/tokyo-2020/ja/news/transportation-notice/#tokyoken>

ウ. ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.1.17-7(1)～(22)に示すとおりである。なお、交通渋滞の問合せについては、交通規制による渋滞、大会関係車両等による渋滞に関するものがあつた。これらについては、大会輸送影響度マップの確認や、交通手段の転換（公共交通機関の利用）への協力等をお願いし、ご理解をいただくよう努めるとともに、関係者間で問合せ内容の情報共有をした。

表 8.1.17-7(1) ミティゲーションの実施状況〔輸送計画全般に係る取組〕

<p>ミティゲーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大会開催中の選手等の関係者輸送ルートを設定する。設定に当たっての基本コンセプトは以下の3点である。関係者輸送ルートを設定することにより大会関係車両の安全、円滑、迅速な輸送サービスを提供するとともに、大会関係車両が一般車両に混入することによる交通渋滞の低減を図る。 ①安全性、定時性を考慮し、信号交差点がなく一般道に比べ事故率も低い高速道路を主として設定する。 ②一般道においては、交通容量の大きい4車線以上の道路を優先して選定する。 ③最寄りとなる高速道路出入口から競技会場までを最短距離で結ぶ経路を設定する。
-----------------	--

実施状況

安全で円滑な輸送サービスを提供するため、関係者輸送ルート（大会ルート、練習会場ルート、代替ルート）の設定を行った。



大会ルート（オリンピック：東京都）



大会ルート（パラリンピック：東京圏）

出典：「輸送運営計画 V2 更新」（令和3年2月 組織委員会・東京都）

表 8.1.17-7(2) ミティゲーションの実施状況〔輸送計画全般に係る取組〕

実施状況 (つづき)	
	
<p>(一般道)</p>	<p>(高速道路) (東京都撮影)</p>
<p>関係者輸送ルートของサイン</p>	
	
	<p>(東京都撮影)</p>
<p>一般道における関係者輸送ルート</p>	
	<p>(東京都撮影)</p>
<p>一般道における関係者輸送ルート</p>	

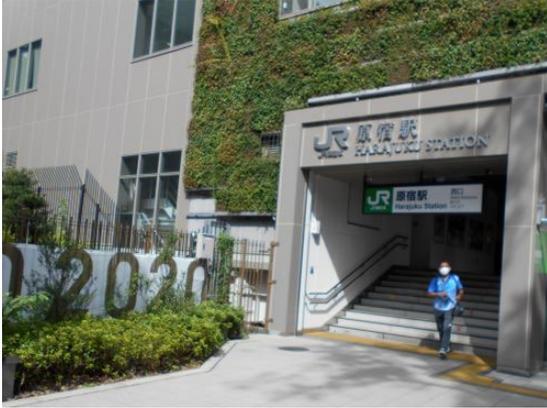
表 8.1.17-7(3) ミティゲーションの実施状況〔輸送計画全般に係る取組〕

ミティゲーション	・観客、会場スタッフの移動には、公共交通機関（鉄道、バス等）を最大限活用することにより、小型車両での分散した移動を抑制するほか、競技会場からの徒歩圏内に鉄道駅がない、もしくは同鉄道駅のみでは、来場が想定される観客数に対応が困難な競技会場 ² では、近隣駅からのシャトルバスの運行により観客を円滑に輸送する。
----------	--

実施状況

会場スタッフは、基本的に鉄道を利用し移動を行った。競技会場からの徒歩圏内に鉄道駅がない海の森水上競技場等については、専用のシャトルバスにより移動を行った。

有観客の競技会場（宮城、伊豆・富士）では、事前予約制での観客シャトルバスを運行した。



（東京都撮影）

公共機関交通を利用する会場スタッフ



（東京都撮影） 出典：「大会輸送の実績（概要）」（令和3年9月29日第16回輸送連絡調整会議資料）

会場スタッフ用のシャトルバス

競技会場の観客シャトルバス乗降場

² 馬事公苑、東京スタジアム、海の森クロスカントリーコース、海の森水上競技場、釣ヶ崎海岸サーフィンビーチ、陸上自衛隊朝霞訓練場、霞ヶ関カンツリー倶楽部、埼玉スタジアム2002、伊豆ベロドローム、伊豆マウンテンバイクコース、富士スピードウェイ、札幌ドーム、宮城スタジアム、福島あずま球場、茨城カシマスタジアム

表 8.1.17-7(4) ミティゲーションの実施状況〔輸送計画全般に係る取組〕

ミティゲーション	・組織委員会は、大会関係者や観客・大会スタッフの安全で円滑な輸送を実現するための総合調整の役割を果たす輸送センターを設置し、東京都をはじめ交通管理者、道路管理者、交通事業者等とも連携し、円滑な輸送の実現を目指すほか、混雑回避へ向けて広報を行う。
----------	--

実施状況

組織委員会等は、大会関係者や観客・大会スタッフの安全で円滑な輸送を実現するための総合調整の役割を果たす輸送センターを設置し、東京都をはじめ交通管理者、道路管理者、交通事業者等とも連携し、円滑な輸送の実現を目指すほか、混雑回避へ向けて広報を行う。

2021年（令和3年）7月1日に輸送の司令塔となる輸送センター（TROC）を開設し、7月7日から稼働させ、大会期間中 24 時間体制で対応を行った。警察や高速道路会社、日本道路交通情報センター等と連携を図り、交通の状況等をリアルタイムで把握することで、迅速かつ適切に様々な事象に対応を行った。

輸送連絡調整会議は、東京圏のみならず、各道県についても立ち上げ、輸送方針の策定をはじめ、輸送のオペレーションを構築し、実施した。



輸送の推進体制



輸送センター

出典：「東京2020大会振り返り」（令和3年12月 組織委員会）

表 8.1.17-7(5) ミティゲーションの実施状況〔輸送計画全般に係る取組〕

実施状況(つづき)

自治体や都営交通、首都高速道路株式会社などと連携し、ドライバーに対する横断幕やパンフレットによる広報を行うほか、路上のパーキング・メーターの利用停止、バス利用者へのバス運行に係る理解を求める表示を通して、円滑な輸送に係る取組を行った。



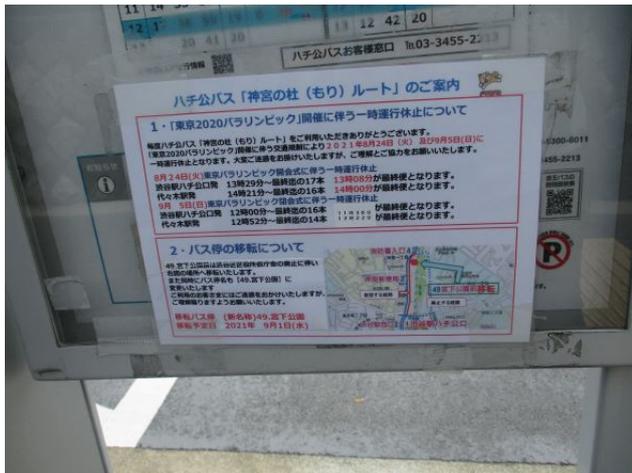
(東京都撮影)



(東京都撮影)

迂回を促す垂れ幕

路上のパーキング・メーターの使用停止



(東京都撮影)



出典：「東京 2020 大会 静岡地区会場 混雑緩和へのお願い」(組織委員会・静岡県・静岡県警)
迂回を促すパンフレット(有料道路の無料化)

バスの運行変更の案内表示

市民・企業等に対し、大会時の交通対策や、交通需要の抑制等について、広く協力を得るため、ウェブ、チラシ・ポスター、横断幕・看板、テレビ、ラジオ、道路交通情報板等の各種媒体を活用した広報を展開した。

実施に当たっては、関係機関が保有する広報媒体や窓口等での掲出に協力してもらうことで、広範囲かつ多方面での広報を展開した。



TDMのバナー広告(内閣官房)



TDMのポスター(東京都)



TSMのポスター(組織委員会)



料金施策のポスター(首都高速道路)

出典：「大会輸送の実績(概要)」(令和3年9月29日第16回輸送連絡調整会議資料)

輸送広報の状況

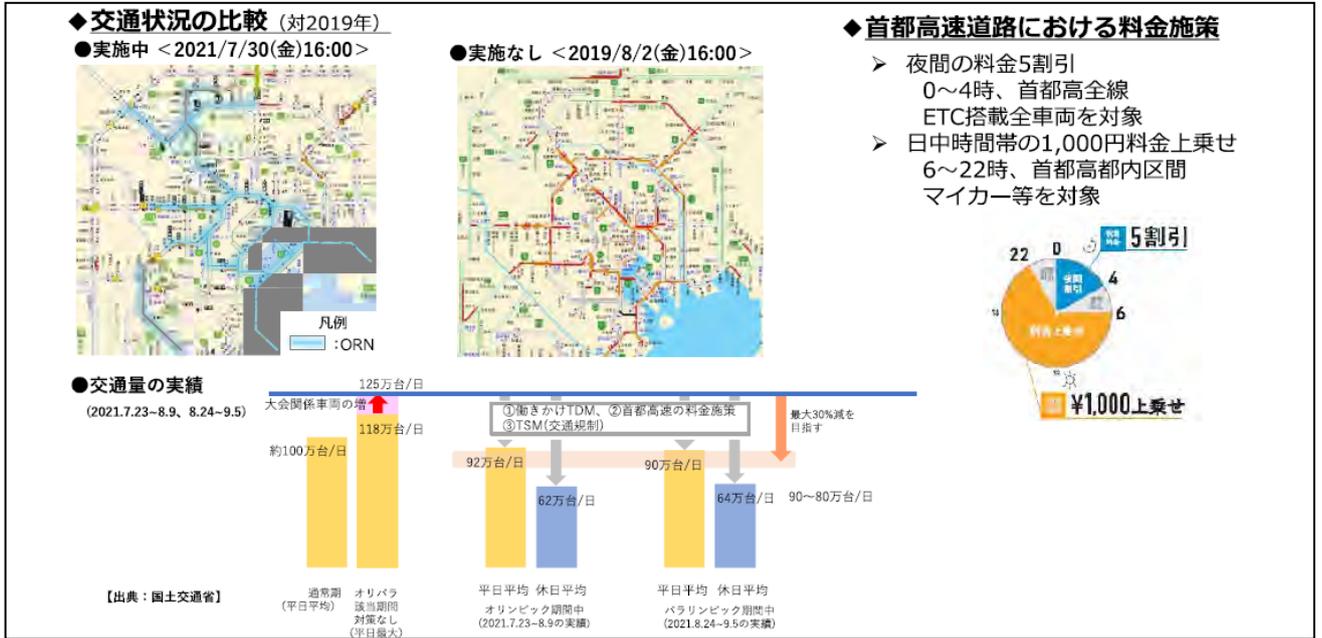
表 8.1.17-7(6) ミティゲーションの実施状況〔輸送計画全般に係る取組〕

<p>実施状況(つづき)</p> <p>大会中においては、デジタルメディアやポスターに加え、CMや新聞広告等による混雑緩和の呼びかけや、混雑予報ポータルサイト、ツイッター等による交通状況等の配信等を行った。</p>		
<p>①CM、ポスター等</p> <p>CM (TV、ラジオ、新聞) や鉄道駅・車内でのポスター展開、道路でのサイネージや横断幕等により、交通混雑緩和や人流抑制を呼びかけ</p> <p>テレビCM 放送局：民放キー5局 期間：7/23-8/31</p> 	<p>鉄道駅ポスター・中づり 提出先：鉄道各社 期間：7/19-8/29</p> 	<p>新聞広告 日本経済新聞 (7/19) 読売新聞 (8/20)</p> 
<p>高速道路サイネージ・横断幕 首都高から見える屋外広告 (12箇所) 期間：7/5-7/18</p> 	<p>都道・国道歩道橋 (50箇所) 期間：7/12-9/5</p> 	
<p>②デジタル施策</p> <p>WEBサイトへの記事掲載や、メルマガ (毎日配信)、YouTube、SNS等を活用し、混雑緩和の呼びかけや交通対策の情報提供を実施 [期間：7/19-9/5]</p> <p>ビジネス誌 (WEB) WEB広告 (バナー) YouTube</p> 		
<p>③明日の混雑予報</p> <p>大会期間中は、明日の混雑予報ポータルサイト、ツイッター等により、交通状況等を毎日配信 [期間：7/14-9/5]</p> <p>ポータル ツイッター</p> 	<p>④国や関係機関との連携</p> <p>国や自治体、関係機関等との連携による呼びかけを実施</p> <p>テレワークデイズ 自治体</p> 	
<p>出典：「大会期間中の交通動向分析」(令和3年9月29日第16回輸送連絡調整会議資料) 大会期間中の集中広報</p>		

表 8.1.17-7(7) ミティゲーションの実施状況〔輸送計画全般に係る取組〕

ミティゲーション
 ・東京 2020 大会開催中は、交通需要マネジメント (TDM) のほか、TDM の効果等を踏まえ、状況に応じた段階的・局所的な交通システムマネジメント (TSM) を計画・実施する。交通システムマネジメント (TSM) は、オリンピック・ルート・ネットワーク (ORN) / パラリンピック・ルート・ネットワーク (PRN) の円滑な交通状況を維持するため、レギュラー時、イレギュラー時のそれぞれの状況に応じて高速道路及び一般道において適切な交通対策を行う。

実施状況
 大会期間中の 7 月 19 日 (月)～8 月 9 日 (月)、8 月 24 日 (火)～9 月 5 日 (日) において、交通需要マネジメント (TDM) や首都高速道路における料金施策、柔軟な交通システムマネジメント (TSM) の取組により渋滞がほぼ抑制された。
 交通システムマネジメント (TSM) としては、高速道路における本線料金所通行制限や入口閉鎖等、一般道における信号調整や駐車対策等を実施した。
 大会期間中の首都高速道路の日交通量は、2019 年 (令和元年) と比較して、平日で約 2 割減少、休日で約 2～3 割減少となった。



出典：「東京 2020 大会振り返り」(令和 3 年 12 月 組織委員会)

交通マネジメントの実施状況

交通需要マネジメントの取組として、東京都、国及び組織委員会が事務局となり、「2020TDM 推進プロジェクト」を推進した。なお、本プロジェクトは、910 団体、52,202 社・事業所で構成されている。

大会までの主な取組

- ◆企業向け (中小企業・商店街向け含む)
 人の流れ、物の流れについて混雑回避の取組を呼びかけ
 説明会約600回、個別相談約3,800回実施 (WEB含む)
 1) テレワーク、時差出勤などの働きかけ
 2) 効率的な物流計画の推進
 3) 工事調整による混雑緩和(対象工事：約2,400件*)
 企業の取組状況 (例)
 ・テレワーク導入企業 2020年3月 24.0% ⇒ 2021年5月 64.8%
 ・サマーセール期間変更 例年7月 ⇒ 6月に前倒し
 ・集約/共同配送、「大会中の配達遅れ」を顧客に案内
- ◆個人向け
 テレワークの実践、計画的な夏季休暇取得、自家用車利用の際の時間・ルート変更、宅配を一回で受取ること等呼び掛け
 (2019年秋～延期前)
 TDMポスター、チラシを配布
 駅、区市、業界団体、企業等に掲示・配架
 (延期後)
 コロナ禍を経た意識変化 (アンケート R2.11月)
 → テレワーク継続意向は高い
 交通規制チラシ (会場周辺・開閉会式) を配布

*件数は、東京都発注工事。このほか、混雑緩和のため国発注工事等についても工事調整を要請

大会期間中の主な取組

- 国・経済団体等との取組
 ・スムーズビズ、テレワーク・デイズの設定(7/19～9/5)
 ・経済界へ人流抑制に向けた働きかけ
 ・夏季休暇の分散取得、休暇中の移動自粛の呼びかけ
 ・東京港ゲートオープン時間拡大 (コンテナターミナル)
 ・工事調整による夜間への振替や工事車両の低減
- 人流抑制の取組 (STAY HOMEの呼びかけ)
 ・テレワークの活用、休暇の取得、オンライン会議
 ・リモート観戦、Eコマース活用
 ・マイカー利用の削減、時間帯・ルート変更
- 物流効率化の取組
 ・リードタイム延長、翌々日配送
 ・納品時期変更、時間指定変更 (オフピーク)
- 大会期間中の集中広報
 ・CM、Web・新聞広告、メルマガ (約5万社、910団体)
 ・ポスター、チラシを配布
- 正確な情報発信
 ・リアルタイムの混雑状況及び翌日の混雑予報の発信
 ・カーナビへの規制情報の提供、Webによる道路交通情報

出典：「大会期間中の交通動向分析」(令和 3 年 9 月 29 日 第 16 回輸送連絡調整会議資料)

2020TDM 推進プロジェクトにおける主な取組

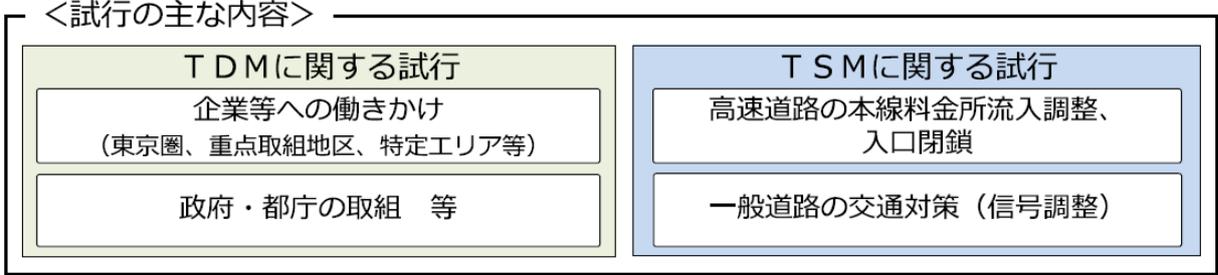
表 8.1.17-7(8) ミティゲーションの実施状況〔輸送計画全般に係る取組〕

実施状況(つづき)	
<p>交通需要マネジメント (TDM) を実施するとともに、日にち・時間・場所・競技を特定した通行規制等の交通システムマネジメント (TSM) を実施した。</p>	
 <p>(東京都撮影)</p>	 <p>(東京都撮影)</p>
<p>日時・場所を特定した通行規制 (高速道路)</p>	<p>日にち・場所を特定した通行規制 (高速道路)</p>
 <p>(東京都撮影)</p>	 <p>(東京都撮影)</p>
<p>日時・場所を特定した通行規制 (一般道)</p>	<p>競技と場所を特定した通行規制</p>

表 8.1.17-7(9) ミティゲーションの実施状況〔輸送計画全般に係る取組〕

ミティゲーション	・東京 2020 大会開催中の交通混雑緩和に向けた取組を総合的にテストするため、2019 年（令和元年）7 月 22 日（月）から 9 月 6 日（金）に交通需要マネジメント（TDM）や交通システムマネジメント（TSM）を試行した。試行の結果、TDM による更なる交通量低減と追加対策として首都高の料金施策による交通需要調整を行う。
----------	--

実施状況
 試行の結果を踏まえた検討等を行い、交通需要マネジメント（TDM）による更なる交通量低減と追加対策として首都高の料金施策による交通需要調整を実施した。



大会本番並みの目標を掲げ、交通混雑緩和に向けた取組を総合的にテストする期間を設定

- 道路交通 ・一般交通
 - 東京圏の広域における一般交通について、大会前の交通量の一律10%減を目指す。特に重点取組地区については、出入りする交通量の30%減を目指す。
 - 首都高速道路における交通量の更なる減
 - 首都高速道路については、交通量を最大30%減とすることで、休日並みの良好な交通環境を目指す。

- オリンピック・パラリンピックの期間に相当する期間を集中取組期間とし、企業等に重点的な取組を依頼
- 各社取組のピークを合わせるチャレンジウィーク及びコア日を中心に、効果測定を実施
- TSMは大会時と同等規模で数日試行する他、選手村～競技会場間でバスを実走

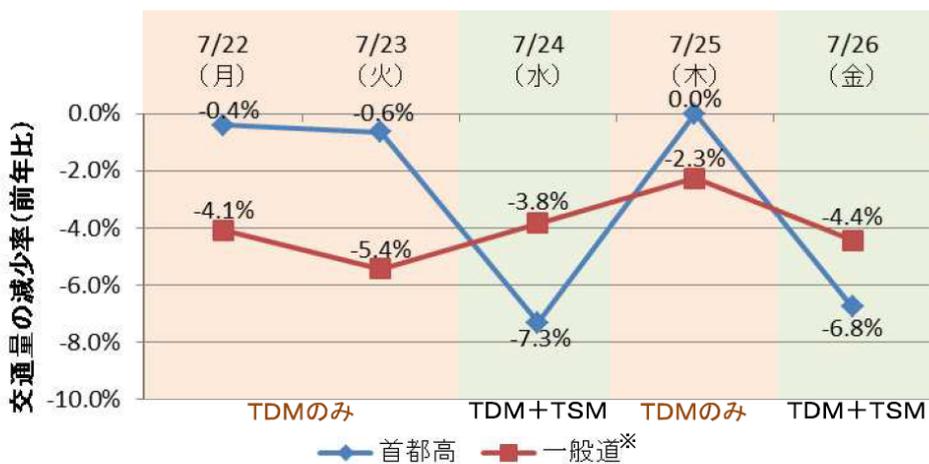
2019年カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
7/14	15					20
21						27
28						3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18						24
25						31
9/1	2	3	4	5	6	7

出典：「試行の内容」（令和元年 8 月 27 日第 9 回輸送連絡調査会議資料）

交通需要マネジメント（TDM）及び通システムマネジメント（TSM）の試行

- ・TDMの効果 : 首都高約0.4%減、一般道約4%減
- ・TDM+TSMの効果: 首都高約7%減、一般道約4%減



※国道1号、4号、6号、14号、15号、17号、20号、246号、254号の15地点の断面交通量の合計

《参考：首都高の通行台数(2018年) 7月平日平均：110.1万台/日，大会同時期最大：117.7万台/日》

出典：「試行の検証について」（令和元年 8 月 27 日第 9 回輸送連絡調査会議資料）

試行期間中の交通量（前年同月同週同曜日の比較）

表 8.1.17-7(10) ミティゲーションの実施状況〔輸送計画全般に係る取組〕

実施状況(つづき)



出典：「試行の検証について」(令和元年8月27日第9回輸送連絡調査会議資料)

首都高における TDM 及び TSM の効果

・国道246号等、放射状路線において通常時を上回る渋滞が発生



出典：「試行の検証について」(令和元年8月27日第9回輸送連絡調査会議資料)

一般道における渋滞の発生

表 8.1.17-7(11) ミティゲーションの実施状況〔輸送計画全般に係る取組〕

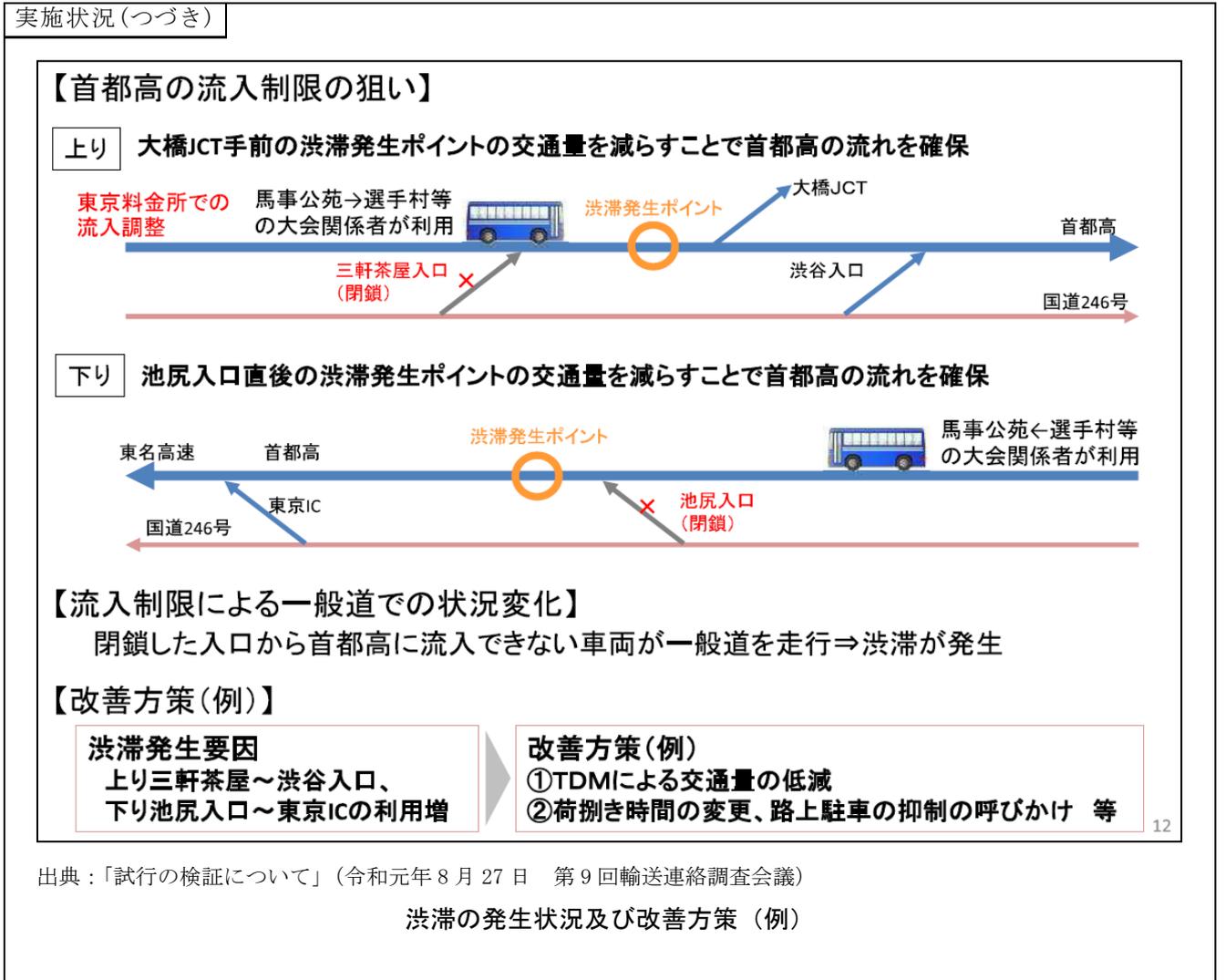


表 8.1.17-7(12) ミティゲーションの実施状況〔輸送計画全般に係る取組〕

<p>実施状況(つづき)</p> <p>オリンピック・パラリンピック期間中の首都高速の交通マネジメントは、以下のとおりであった。</p>	
<p>① 働きかけTDM(交通需要マネジメント)で物流車両も含めた道路交通全体の需要を削減</p>	
<p>② 首都高速の料金施策</p> <p>(1)適用期間 2021/7/19~8/9、8/24~9/5</p> <p>(2)料金パターン</p> <p>(3)対象車両 ・ETC車 【夜間割引】 全車種(ETC車)に適用 【料金を上乗せ】 マイカー等を対象に適用。公共交通、物流車両、障害者、福祉車両、緊急車両は対象外 ・現金車 【料金を上乗せ】 普通車以下の全てに適用</p>	<p>出典:「2021年夏季の東京圏の交通状況 オリンピック・パラリンピック期間中の首都高速の料金施策」(2022年2月28日参照 国土交通省ホームページ) https://www.mlit.go.jp/road/2021summer-tr/pdf/jisseki.pdf</p>
<p>③ 交通状況に合わせたTSM(本線料金所のレーン削減や入口閉鎖)の実施</p>	<p>(東京都撮影)</p> <p>首都高の入口閉鎖の状況</p>
<p>首都高速の交通マネジメント</p>	
<p>(東京都撮影)</p> <p>首都高の料金施策(料金の上乗せ)の表示</p>	<p>(東京都撮影)</p> <p>ロードプライシング実施を伝える横断幕</p>

表 8.1.17-7(13) ミティゲーションの実施状況〔輸送計画全般に係る取組〕

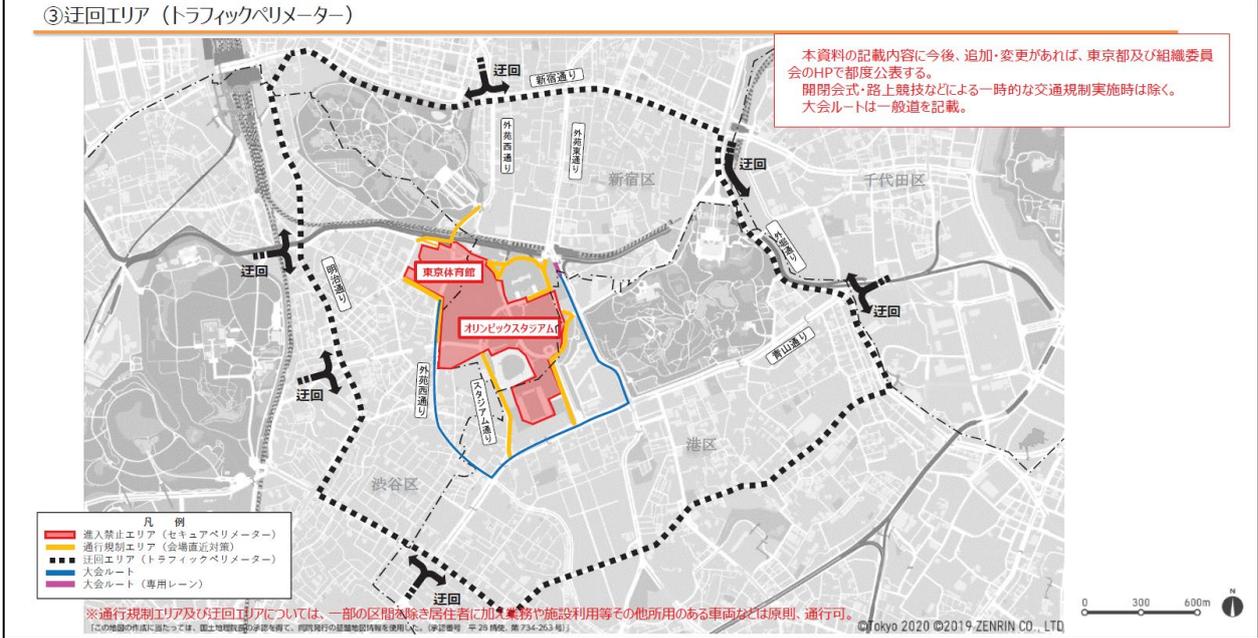
<p>ミティゲーション</p>	<p>・競技会場周辺には、トラフィックペリメーター（境界）を設定し、一般交通の通過交通の進入を抑制するため、一般車両の迂回道路として、トラフィックペリメーター外側の幹線道路を設定する。トラフィックペリメーターについては、事前にホームページに掲載するほか、競技会場周辺へのチラシポスティングにより事前周知を図る。また、迂回道路となる幹線道路上の歩道橋に横断幕の設置や、既存の交通情報板から情報発信を行い、広域的に車両の迂回を促すとともに、円滑な一般車両の誘導のため、迂回案内看板や必要に応じ交通誘導員等を配置する。</p>
<p>実施状況</p>	<p>競技会場周辺には、トラフィックペリメーター（う回エリア）を設定し、一般交通の通過交通の進入を抑制するため、一般車両の迂回道路として、トラフィックペリメーター外側の幹線道路を設定した。</p> <p>トラフィックペリメーター等の会場周辺交通対策図は、ホームページに掲載した。掲載に当たっては、会場ごとに検索ができるようにした。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>③迂回エリア（トラフィックペリメーター）</p>  <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 進入禁止エリア（セキュリティペリメーター） ■ 通行規制エリア（会場直近対策） ■ 迂回エリア（トラフィックペリメーター） ■ 大会ルート ■ 大会ルート（専用レーン） <p>※通行規制エリア及び迂回エリアについては、一部の区間を除き居住者に加え業務や施設利用等その他所用のある車両などは原則、通行可。 <small>（この地図の外域に適用する際、国土情報院の地図を基として、当該地域の最新地図情報を使用し、印刷番号：東京都、第754263号）</small></p> <p>© Tokyo 2020 ©2019 ZENRIN CO., LTD.</p> </div>	
<p>出典：「輸送運営計画 V2 更新」（令和 3 年 2 月 組織委員会・東京都）</p> <p style="text-align: center;">トラフィックペリメーターの例 （オリンピックスタジアム・東京体育館）</p>	

表 8.1.17-7(14) ミティゲーションの実施状況〔輸送計画全般に係る取組〕

実施状況(つづき)

ホームページにおける会場周辺交通対策図の掲載とともに、交通規制についてわかりやすくまとめた「お知らせチラシ」の配布を行った。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
交通規制のお知らせ

東京2020大会開催に伴い競技会場周辺で交通規制が行われます。ご迷惑をおかけしますが、行動時間や経路の変更など、混雑緩和にご理解とご協力をお願いします。

オリンピックスタジアム 東京体育館
陸上競技・サッカー
6/8(火)～9/30(木)

6/8(火)～6/26(金)・9/17(日)～9/30(木) 6/27(土)～7/2(火) 7/3(水)～9/16(木)

6/27(土)～7/2(火)

7/3(水)～9/16(木)

出典：「会場周辺交通対策」(2021年8月3日参照 2020TDM 推進プロジェクトホームページ)
<https://2020tdm.tokyo/traffic/index.html>
お知らせチラシ(オリンピックスタジアム・東京体育館)

表 8.1.17-7(15) ミティゲーションの実施状況〔輸送計画全般に係る取組〕

実施状況(つづき)	<p>幹線道路上の歩道橋への横断幕の設置や、既存の交通情報板からの情報発信を行い、競技会場周辺では複数箇所において、迂回案内看板の設置を行い、円滑な一般車両の誘導を行った。</p>	
		
	(東京都撮影)	(東京都撮影)
歩道橋に設置された横断幕	歩道橋に設置された横断幕	
		
	(東京都撮影)	(東京都撮影)
交通情報板での情報発信	迂回案内看板	
ミティゲーション	<p>・デポ等における大会関係車両の出入口には交通整理員を配置し、周辺交通流への影響低減を図る。</p>	
実施状況	<p>デポ等の大会関係車両の出入口において、交通誘導員を配置した。</p>	
		
	(東京都撮影)	(東京都撮影)
交通誘導員の配置 (デポ)	交通誘導員の配置 (国立代々木競技場)	

表 8.1.17-7(16) ミティゲーションの実施状況〔個別競技会場周辺での取組〕

ミティゲーション	・競技会場周辺の道路が、交通容量の小さい2車線道路が多い馬事公苑については、シャトルバスによる観客の輸送を計画している。
実施状況	(馬事公苑については、駅からの距離が遠いため、シャトルバスによる観客の輸送を計画していたが、無観客開催となったため、シャトルバスの運行は行わなかった。)
ミティゲーション	・大会期間中は、競技会場内外の車両動線や乗降場、駐車場において、誘導員を配置するとともに、サイン等を設置し、大会関係車両へ分かりやすい案内・誘導を行い、周辺交通流への影響低減を図る。
実施状況	

競技会場周辺において、車両に係るサインを設置し、必要に応じて誘導員を配置し、一般の方々及び大会関係車両の安全で円滑な通行の確保を行った。



(東京都撮影)

大会関係車両への案内サイン (東京スタジアム)



(東京都撮影)

設置されたサイン (国立代々木競技場)



(東京都撮影)

誘導員の配置



(東京都撮影)

表 8.1.17-7(17) ミティゲーションの実施状況〔その他の取組〕

<p>ミティゲーション</p>	<p>〔その他の取組〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 大会時の交通状況についての理解や混雑回避に向けた確実な準備の実施を促すため、交通需要マネジメント（TDM）推進に向けた全体説明会・重点取組地区の地区別説明会、業界団体等説明会、イベントにおける情報発信を行い、多様な手段を用いて十分な周知を進めている。また、テレワーク導入等に関するコンサルタントによる無料相談等を実施している。また、各企業での「2020 アクションプラン」の作成を支援するため、「アクションプラン作成支援の簡易ツール」と「TDM ハンドブック」（令和元年7月 2020TDM 推進プロジェクト運営事務局）を提供している。
<p>実施状況</p>	<p>大会時の交通状況についての理解や混雑回避に向けた確実な準備の実施を促すため、交通需要マネジメント（TDM）推進に向けた全体説明会・重点取組地区の地区別説明会、業界団体等説明会、広報活動等による情報発信を行い、多様な手段を用いて十分な周知を進めた。また、テレワーク導入や物流の効率化等に関するコンサルタントによる無料相談等を実施した。さらに、各企業での「2020 アクションプラン」の作成を支援するため、「アクションプラン作成支援の簡易ツール」や「TDM ハンドブック」の提供も行った。</p> <p>「2020TDM 推進プロジェクト」として、大会までに、企業向け（中小企業・商店街向けを含む。）に、人の流れ、物の流れについて混在回避の取組を呼びかけ、説明会約 600 回、個別相談約 3,800 回実施した（WEB を含む。）。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="197 819 440 853" style="width: 48%;"> <p>大会までの主な取組</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>◆企業向け（中小企業・商店街向け含む）</p> <p>人の流れ、物の流れについて混雑回避の取組を呼びかけ 説明会約600回、個別相談約3,800回実施（WEB含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) テレワーク、時差出勤などの働きかけ 2) 効率的な物流計画の推進 3) 工事調整による混雑緩和(対象工事：約2,400件※) <p>企業の取組状況（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレワーク導入企業 2020年3月 24.0% ⇒ 2021年5月 64.8% ・サマーセール期間変更 例年7月 ⇒ 6月に前倒し ・集約/共同配送、「大会中の配送遅れ」を顧客に案内 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆個人向け</p> <p>テレワークの実践、計画的な夏季休暇取得、自家用車利用の際の時間・ルート変更、宅配を一回で受取ることを呼び掛け</p> <p>(2019年秋～延期前) TDMポスター、チラシを配布 駅、区市、業界団体、企業等に掲示・配架</p> <p>(延期後) コロナ禍を経た意識変化（アンケート R2.11月） → テレワーク継続意向は高い 交通規制チラシ（会場周辺・開閉会式）を配布</p> </div> </div> <div data-bbox="858 819 1126 853" style="width: 48%;"> <p>大会期間中の主な取組</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>国・経済団体等との取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スムーズビズ、テレワーク・デイズの設定(7/19～9/5) ・経済界へ人流抑制に向けた働きかけ ・夏季休暇の分散取得、休暇中の移動自粛の呼びかけ ・東京港ゲートオープン時間拡大（コンテナターミナル） ・工事調整による夜間への振替や工事車両の低減 <p>人流抑制の取組（STAY HOMEの呼びかけ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレワークの活用、休暇の取得、オンライン会議 ・リモート観戦、Eコマース活用 ・マイカー利用の削減、時間帯・ルート変更 <p>物流効率化の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リードタイム延長、翌々日配送 ・納品時期変更、時間指定変更（オフピーク） <p>大会期間中の集中広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CM、Web・新聞広告、メルマガ（約5万社、910団体） ・ポスター、チラシを配布 <p>正確な情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リアルタイムの混雑状況及び翌日の混雑予報の発信 ・カーナビへの規制情報の提供、Webによる道路交通情報 </div> </div> </div> <p>※件数は、東京都発注工事。このほか、混雑緩和のため国発注工事等についても工事調整を要請</p> <p>出典：「大会期間中の交通動向分析」（令和3年9月29日第16回輸送連絡調整会議資料）</p> <p style="text-align: center;">2020TDM 推進プロジェクトにおける主な取組</p>

表 8.1.17-7(18) ミティゲーションの実施状況〔その他の取組〕

実施状況 (つづき)

<人流抑制の取組 (例)>



「東京都から東京 2020 大会期間中のお願い」ポスター

<正確な情報発信 (例)>



出典：「交通に関する実績データと分析」（令和4年1月31日第8回交通運輸技術検討会資料）
「明日の混雑予報」のポータルサイト

表 8.1.17-7(19) ミティゲーションの実施状況〔その他の取組〕

実施状況（つづき）

「物流 TDM 実行協議会」では、中小企業や個人事業主を対象とした WEB セミナーの開催や、各社の事情を踏まえた物流 TDM のコンサルティング、地域特性を踏まえた商店街単位の勉強会等を実施した。

＜物流効率化の取組（例）＞



●東京2020大会カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
7/4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31
8/1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	9/1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11

オリンピック 2021年7月23日～8月8日
パラリンピック 2021年8月24日～9月5日

様々な交通対策が実施される期間



中小企業・商店街の皆様へ
大会に向けた準備を始めましょう

東京2020大会スケジュール

- オリンピック競技大会 2021年7月23日（金）～8月8日（日）
- パラリンピック競技大会 2021年8月24日（火）～9月5日（日）

大会期間中の交通対策について

オリンピック開会式の交通規制
開会式・閉会式当日は、神宮外苑周辺や青山通りをはじめ、オリンピックスタジアムや晴海選手村周辺、首都高速道路で交通規制が行われます。

競技会場等周辺
進入禁止エリアや通行規制エリア、待回エリアが設けられます。また大会関係車両専用レーンや優先レーン等が設置されます。

高速道路・一般道
高速道路の本線料金所での通行規制や、交通状況に応じた入口閉鎖などが実施されます。また一般道の一部でも信号調整等が実施されます。

首都高速道路の料金徴収
夜間の料金割引および日中時間帯の料金上げが実施されます。

事業者の皆様へ予想される影響

普段の配送や仕入れのルートが通行できない・通行に時間がかかる
荷物が予定どおりに届かない・届かない

こうした影響を防ぐため、事前の対策をお願いします

●TDM推進プロジェクト

2020TDM推進プロジェクトHPでは、大会期間中の交通対策の他、プロジェクト登録者に対して下記の情報を公開しています。また、メルマガでの情報提供なども行っています。（無料）

- 大会輸送影響度マップ
- 所要時間・経路探索システム

●東京都ポータルサイト

聖火リレーや大会の観戦情報、新型コロナウイルス感染防止対策などの情報を、一元的に発信しているポータルサイトです。

2020物流TDM実行協議会が皆様の取組を支援します

- 個別相談や勉強会の実施/ウェブセミナーの実施
- 物流効率化に係る取組の表彰・周知

2020物流TDM実行協議会とは

東京都が、中小企業等の物流対策促進を主な目的として発足した組織で、関係行政のほか、中小企業の関係団体、トラック協会などが参加しています。東京2020大会時、そして大会終了後も「ガスター」として残すことのできるような物流対策の認知と実施を目指します。

協議会では、事業者の様々な取組について関係する案内や相談等を行いながら、具体的な対応について検討・提案をしております。

※TDMとは、交通混雑抑制・分散・平準化を行う「交通混雑マネジメント」を指します。

お問い合わせ・ご意見

2020物流TDM実行協議会事務局
Mail:info@tdm-tokyo2020.jp
FAX:03-6855-6094

中小企業・商店街の皆様をお願いしたいこと

飲食店・小売店/卸売業者

- 複数日分の一括発注
大会期間中心配送料を減らすため、複数日分をまとめて発注するなど、発注回数を見直しをご検討ください。
- 大会期間を避けた発注・納品
大会期間を避けた、事前・事後の発注と納品をご検討ください。荷物の運送とそれに伴う在庫切れを防ぐことが期待できます。
- 柔軟な受取方法の検討
発注時間を避けた時間帯（深夜や早朝）の納品や置き配に対応したり、近隣の店舗や事業者と協力して共同配達サービスを検討することで、大会期間中のスムーズな荷物の受け取りが期待できます。

製造業・メーカー

- 複数日分の一括発注への対応
大会期間中における小口発注を見直しとともに、納品先からの一括発注の受入体制をご検討ください。
- 他社・他品目との共同配送
他社との協力体制の確保や他品目との共同配送の調整をご検討ください。配送回数の削減が期待できます。
- 大会期間を避けた発注・納品
大会期間を避けた事前・事後の発注と納品をご検討ください。荷物の運送とそれに伴う在庫切れを防ぐことが期待できます。
- 納品・調達量の調整
輸送回数削減のため、納品や小口発注を見直し、納品量と調達量の再考についてご検討ください。

運輸業者

- 配送ルートの最適化
大会輸送影響度マップや所要時間・経路探索システムを活用し、大会期間中の最適ルートや混雑時間を避けた配送ルートをご検討ください。
- 柔軟な配達方法の検討
店舗や宅配ボックスでの受け取りシステムの拡充や、店舗への置き配などの対応をご検討ください。配達頻度の抑制と再配達の高負担を軽減させることが期待できます。

大会期間中の情報提供

大会輸送の円滑化と経済活動や都市活動の再立を図るため、東京都では、TDM推進プロジェクト登録者に向けた情報提供を行っています。登録者への取組にぜひご利用ください！

- 大会輸送影響度マップ
- 所要時間・経路探索システム

大会期間中、TDM（交通混雑マネジメント）による交通量低減に向けた対策を行わない場合、道路や鉄道などの混雑が激化するのを現実的に確認することができます。

出発地と到着地を指定して、大会期間中の所要時間や迂回経路を検索することができます。（2020TDM推進プロジェクト登録者専用）

2020物流TDM実行協議会からの支援

個別相談等の実施<無料>

専門家が事業内容に応じて、対象となる助成制度の紹介や配送コストの削減方法、他社との効果的な調整方法等を個別にコンサルティングします。また、各商店街のエリアや特性を考慮した勉強会も行っています。

出典：「協議会におけるこれまでの取組（実績）」（令和3年11月1日 2020 物流 TDM 実行協議会第7回総会資料）
都内中小企業・個人事業主、競技会場周辺の商店街等への配布チラシ

表 8.1.17-7(20) ミティゲーションの実施状況〔その他の取組〕

実施状況(つづき)

企業の取組を支援するため、「TDM ハンドブック」や「アクションプラン作成支援の簡易ツール」の提供を行った。



TDM HANDBOOK
— 企業活動と東京 2020 大会輸送との両立に向けて —

みんなで混雑をなくそう!

TAKE ACTION
2020TDM 推進プロジェクト

2021年3月(Ver1.55)
2020TDM 推進プロジェクト運営事務局

目次

大会概要と事業への影響

1 章 コロナ禍での交通状況など……………1-1

2 章 大会概要の把握……………2-2
大会日程、観戦会場、関係者輸送ルート等の確認

2-14 御社の企業活動の現状を把握……………2-14
社員の通勤、勤務時間、体制、営業活動の方法、荷物の入出庫の把握

2-15 大会時に想定される御社の企業活動への影響を洗い出し……………2-15
人の移動：社員の通勤、商旅、会議等
モノの移動：商品、部品、備品等

対策を考える（アクションプランの作成）

3 章 アクションプランを作成してみませんか……………3-2
●取組項目の確定：Step1
●内容（いつ、どこから）の確定：Step2
●取組推進の責任者/部署と実施の確認方法の確定：Step3

3-8 交通混雑の影響を受けそうな日、時間帯を影響度マップで確認……………3-8

3-16 活用できそうな各種支援策を確認……………3-16

試して課題を探る

4 章 アクションプランの試行……………4-2
試行から課題の洗い出し……………4-3
アクションプランの修正……………4-3

大会に備える！

「TDM ハンドブック」

2020アクションプラン

※貴社の実情に合わせて適宜追加、修正ください。

導入名:		所在地:				従業員数:	
Step1	内容	いつ	誰が	目標	責任者/部署	確認方法	
例	テレワーク(在宅勤務)	テレワーク勤務の実施	2021年3月20日(金)以降	営業部/本社勤務社員	80%程度	総合企画部/情報管理部	ログイン記録
1	取組めそうな通勤対策はありますか?						
2							
3							
4							
5							
例	研修、イベント(期外)	研修研修の時期変更	7月開催を9月下旬開催に	幹部研修対象者	全関係会社	人事研修企画チーム	研修予定簿
1	取組めそうな業務移動対策はありますか?						
2							
3							
4							
5							

通勤対策関連	業務移動関連	業務関連	製造・調達関連
取組めそうな通勤対策はありますか?	取組めそうな業務移動対策はありますか?	取組めそうな業務関連対策はありますか?	取組めそうな製造・調達対策はありますか?
----- 出勤場所 -----	----- 場所や方法 -----	----- 業務 -----	----- 物の発送や受取 -----
例	テレワーク(在宅勤務)	ビデオ会議・WEB会議の活用	非接触受取の指定
1	テレワーク(郊外のサテライトオフィス活用)	研修・イベントのオンライン開催	宅配便の時間指定の変更
2	テレワークの柔軟活用(半日テレワーク、半日出勤等)	研修、イベントの他地区への変更	宅配便の発送時期の変更
3	業務地の一時移転	----- 時期 -----	別地区事業所からの発送へ変更
4	----- 通勤制度 -----	来客打合せの期中自席	別地区事業所への納品へ変更
5	時差通勤	外出打合せの期中自席	----- 運用 -----
6	フレックスタイム	研修、イベント時期の変更(期外から期中外へ)	早朝、深夜の配送、納品
7	圧縮勤務	----- 移動手段 -----	共同配送や積み合わせ
8	交代勤務	車利用の営業移動、業務移動の自席	輸送経路の変更(迂回)
9	----- 休暇 -----	鉄道、バスへの変更	----- 輸送手段 -----
10	一斉休業	バイク、自転車への変更	バイク、自転車輸送への変更
11	夏季休暇時期の調整		徒歩配送への変更
12	夏季休暇、有給休暇の計画的取得		電子化による発送の削減
13	ボランティア休暇の奨励		
14	----- その他 -----		
15	決済の電子化等による出勤必要性低減		
16	車通勤の自席		
17	自転車、徒歩への変更		

出典：「2020 アクションプラン作成支援簡易ツール」(2021年8月3日参照 2020TDM 推進プロジェクトホームページ)

「アクションプラン作成支援の簡易ツール」

表 8.1.17-7(21) ミティゲーションの実施状況〔その他の取組〕

ミティゲーション	<p>・快適な通勤環境や企業の生産性の向上を図る新しいワークスタイルや企業活動の東京モデルを「スムーズBiz」とし、全ての人々がいきいきと働き、活躍できる社会の実現に向け、東京 2020 大会の交通混雑緩和に向けた交通需要マネジメント (TDM) とテレワーク、時差Bizなどの一体的な取組の推進を目指して、東京都と組織委員会が連携して企業・個人に「スムーズBiz」を働きかけている。</p>								
実施状況	<p>東京都は、スムーズBizの周知や企業等の先進的な取組を紹介するためのイベントや表彰式を開催したほか、集中的な取組期間の設定や鉄道事業者と連携した広報を行い、企業や働く人々への周知啓発を実施した。</p> <p>また、専用サイトを開設して、スムーズBizPR動画等を掲載したほか、企業等の取組事例や各取組の支援制度の紹介など積極的に情報発信を行った。</p> <p>出典：「各種ダウンロード」(2022年3月12日参照 スムーズBizホームページ) https://smooth-biz.metro.tokyo.lg.jp/about/</p> <div data-bbox="1098 369 1337 705" style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">PRポスター（スムーズBizの概要）</p>								
ミティゲーション	<p>・大会本番となる2021年(令和3年)夏の期間における、物流の効率化、配送ルートの変更、荷さばき時間帯の変更など効率的な物流につながる取組を、東京都と組織委員会が連携して企業に働きかけている。</p>								
実施状況	<p>東京都、東京 2020 組織委員会、農林水産省、経済産業省、国土交通省の連名で、荷主、物流事業者に対して、オリンピック・パラリンピック競技大会期間中の物流に係る協力依頼を行った。</p>								
<p>表 競技大会期間中の物流に係るご協力のお願いの概要</p>									
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 85%;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 交通量の抑制のための取組</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・複数荷主の連携による倉庫の共同しよう、共同輸配送 ・テナントビル等における集配業務の共同化 ・分散している複数荷主の物流拠点の統合による輸送網の集約 ・静脈物流の集約・効率化 ・輸送頻度の削減 等 </td> </tr> <tr> <td>2. 交通量の分散化・平準化のための取組例</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・十分なリードタイムでの発注による柔軟な輸配送時間帯の設定 ・十分なリードタイムでの発注による柔軟な輸配送ルートの設定（首都高速道路や都心に向かう一般道を使用しない輸配送ルートの設定） ・オフィス移転等大規模な物の移動が伴う作業の大会期間外への変更 ・セール等販売促進企画の大会期間外への変更 ・在庫調整による輸配送日の平準化 ・付帯作業見直しや納品作業の簡素化による納品時間の短縮、輸送の効率化 ・複数の物流拠点を保有する場合、拠点から配送されるエリア等の弾力的な運用（渋滞が予想されるエリアへの配送について、拠点の変更や複数拠点からの配送等） ・納品時間の夜間への変更 等 </td> </tr> <tr> <td>3. その他</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・特に渋滞が予想されるエリアにおいては、トラックの公道待機などによる渋滞悪化を防止するため、可能な限り「駐車スペースの確保」「スムーズな荷物の受け渡し」にご協力ください。 </td> </tr> </tbody> </table>	項目	内容	1. 交通量の抑制のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・複数荷主の連携による倉庫の共同しよう、共同輸配送 ・テナントビル等における集配業務の共同化 ・分散している複数荷主の物流拠点の統合による輸送網の集約 ・静脈物流の集約・効率化 ・輸送頻度の削減 等 	2. 交通量の分散化・平準化のための取組例	<ul style="list-style-type: none"> ・十分なリードタイムでの発注による柔軟な輸配送時間帯の設定 ・十分なリードタイムでの発注による柔軟な輸配送ルートの設定（首都高速道路や都心に向かう一般道を使用しない輸配送ルートの設定） ・オフィス移転等大規模な物の移動が伴う作業の大会期間外への変更 ・セール等販売促進企画の大会期間外への変更 ・在庫調整による輸配送日の平準化 ・付帯作業見直しや納品作業の簡素化による納品時間の短縮、輸送の効率化 ・複数の物流拠点を保有する場合、拠点から配送されるエリア等の弾力的な運用（渋滞が予想されるエリアへの配送について、拠点の変更や複数拠点からの配送等） ・納品時間の夜間への変更 等 	3. その他	<ul style="list-style-type: none"> ・特に渋滞が予想されるエリアにおいては、トラックの公道待機などによる渋滞悪化を防止するため、可能な限り「駐車スペースの確保」「スムーズな荷物の受け渡し」にご協力ください。 	
項目	内容								
1. 交通量の抑制のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・複数荷主の連携による倉庫の共同しよう、共同輸配送 ・テナントビル等における集配業務の共同化 ・分散している複数荷主の物流拠点の統合による輸送網の集約 ・静脈物流の集約・効率化 ・輸送頻度の削減 等 								
2. 交通量の分散化・平準化のための取組例	<ul style="list-style-type: none"> ・十分なリードタイムでの発注による柔軟な輸配送時間帯の設定 ・十分なリードタイムでの発注による柔軟な輸配送ルートの設定（首都高速道路や都心に向かう一般道を使用しない輸配送ルートの設定） ・オフィス移転等大規模な物の移動が伴う作業の大会期間外への変更 ・セール等販売促進企画の大会期間外への変更 ・在庫調整による輸配送日の平準化 ・付帯作業見直しや納品作業の簡素化による納品時間の短縮、輸送の効率化 ・複数の物流拠点を保有する場合、拠点から配送されるエリア等の弾力的な運用（渋滞が予想されるエリアへの配送について、拠点の変更や複数拠点からの配送等） ・納品時間の夜間への変更 等 								
3. その他	<ul style="list-style-type: none"> ・特に渋滞が予想されるエリアにおいては、トラックの公道待機などによる渋滞悪化を防止するため、可能な限り「駐車スペースの確保」「スムーズな荷物の受け渡し」にご協力ください。 								
<p>出典：「2020TDM 推進プロジェクト」(2021年8月3日参照 2020TDM 推進プロジェクトホームページ)</p>									
<p>また、「2020 物流 TDM 実行協議会」は、以下のような取組を実施した。</p>									
<p><協議会における取組（実績）></p>									
<ul style="list-style-type: none"> ■ホームページの設立・運営（2020年3月～2021年12月） <ul style="list-style-type: none"> ・物流 TDM の取組、個別コンサルティング等を紹介 ■啓発グッズの作成・配布 <ul style="list-style-type: none"> ・物流 TDM の普及啓発のため、中小企業・個人事業主向けのグッズを作成し、関係団体を通じて配布 ■チラシの作成・配布 <ul style="list-style-type: none"> ・大会時に想定される影響、業種別の対策と支援策等を周知 ■協議会委員による広報 <ul style="list-style-type: none"> ・協議会委員にご協力いただき、各団体の広報物へチラシ等を掲載 ■コンサルティング・勉強会 <ul style="list-style-type: none"> ・各社の事情を踏まえた物流 TDM のコンサルティング、地域特性を踏まえた商店街単位の勉強会等を実施 ■「未来につながる物流」認定・表彰 <ul style="list-style-type: none"> ・物流効率化に向けた意欲的・先進的な取組を「未来につながる物流」として認定・表彰 ■WEB セミナー <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業や個人事業主を対象とした WEB セミナーを計 2 回実施。計 133 名が参加。 									
<p>出典：「協議会におけるこれまでの取組（実績）」(令和3年11月1日 2020 物流 TDM 実行協議会第7回総会資料)</p>									

表 8.1.17-7(22) ミティゲーションの実施状況〔その他の取組〕

ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> 大会開催中の交通混雑緩和に向けた都庁自らの取組として、「都庁 2020 アクションプラン」に基づき、年休・夏休の計画的取得、時差出勤・フレックスタイム・テレワークの実施、庁有車利用の抑制、都庁発注工事の調整等を行う。また、最重点取組として、2019年(令和元年)夏季より、都庁完全オフピークの実施、出勤者の徹底抑制、本庁職員全員のテレワークの実施を行う。 																		
実施状況	<p>「都庁 2020 アクションプラン」に基づき、最重点取組に関わらず、大会開催中の交通混雑緩和に向けた各種取組を実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>取組</th> <th>実績</th> <th>実施期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>テレワーク・オフピーク通勤の実施</td> <td>期間中のテレワーク実施率は約7割 (本庁における期間中の一日平均)</td> <td>2021年7月19日 ～9月5日</td> </tr> <tr> <td>備品やコピー用紙等の納品時期の変更</td> <td>納品回数を約4割削減(昨年同時期と比較) 約2,300回⇒約1,400回 (うちコピー用紙納品数 約6,100箱⇒約3,500箱) (ペーパーレスの推進や納品時期の前倒し等の実施)</td> <td rowspan="2">2021年7月19日 ～8月9日、 8月24日～9月5日</td> </tr> <tr> <td>コピー用紙・ごみの削減</td> <td>本庁のごみ搬出量を約4割削減(昨年同時期と比較) (ペーパーレスの推進。水筒・マイカップの持参推奨、実施期間中は、古紙(新聞・雑誌・段ボール等)、シュレッダーごみ等を会議室等に一時保管)</td> </tr> <tr> <td>都庁発注工事の調整</td> <td>期間中に施工中の約8割の工事で取組を実施 (車両の搬入回数(資材搬入等)の減、車両の出入り時間のコアタイム外(早朝・夜間等)への振替、工事の一時休止等)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>庁有車利用の抑制</td> <td>本庁の庁有車利用を約4割削減(昨年同時期と比較) (オンライン会議への変更、出張時期の変更)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>出典：「大会期間中の都庁 2020 アクションプラン等の実施報告などについて」(令和4年1月31日第8回交通輸送技術検討会資料)</p>		取組	実績	実施期間	テレワーク・オフピーク通勤の実施	期間中のテレワーク実施率は約7割 (本庁における期間中の一日平均)	2021年7月19日 ～9月5日	備品やコピー用紙等の納品時期の変更	納品回数を約4割削減(昨年同時期と比較) 約2,300回⇒約1,400回 (うちコピー用紙納品数 約6,100箱⇒約3,500箱) (ペーパーレスの推進や納品時期の前倒し等の実施)	2021年7月19日 ～8月9日、 8月24日～9月5日	コピー用紙・ごみの削減	本庁のごみ搬出量を約4割削減(昨年同時期と比較) (ペーパーレスの推進。水筒・マイカップの持参推奨、実施期間中は、古紙(新聞・雑誌・段ボール等)、シュレッダーごみ等を会議室等に一時保管)	都庁発注工事の調整	期間中に施工中の約8割の工事で取組を実施 (車両の搬入回数(資材搬入等)の減、車両の出入り時間のコアタイム外(早朝・夜間等)への振替、工事の一時休止等)		庁有車利用の抑制	本庁の庁有車利用を約4割削減(昨年同時期と比較) (オンライン会議への変更、出張時期の変更)	
取組	実績	実施期間																	
テレワーク・オフピーク通勤の実施	期間中のテレワーク実施率は約7割 (本庁における期間中の一日平均)	2021年7月19日 ～9月5日																	
備品やコピー用紙等の納品時期の変更	納品回数を約4割削減(昨年同時期と比較) 約2,300回⇒約1,400回 (うちコピー用紙納品数 約6,100箱⇒約3,500箱) (ペーパーレスの推進や納品時期の前倒し等の実施)	2021年7月19日 ～8月9日、 8月24日～9月5日																	
コピー用紙・ごみの削減	本庁のごみ搬出量を約4割削減(昨年同時期と比較) (ペーパーレスの推進。水筒・マイカップの持参推奨、実施期間中は、古紙(新聞・雑誌・段ボール等)、シュレッダーごみ等を会議室等に一時保管)																		
都庁発注工事の調整	期間中に施工中の約8割の工事で取組を実施 (車両の搬入回数(資材搬入等)の減、車両の出入り時間のコアタイム外(早朝・夜間等)への振替、工事の一時休止等)																		
庁有車利用の抑制	本庁の庁有車利用を約4割削減(昨年同時期と比較) (オンライン会議への変更、出張時期の変更)																		
ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> 2019年(令和元年)夏には、「都庁 2020 アクションプラン」の取組を大会時を想定して試行し、試行結果を踏まえ、東京 2020 大会期間中の交通混雑緩和に向けた「都庁 2020 アクションプラン」を更新した。 																		
実施状況	<p>「都庁 2020 アクションプラン」の試行を行い、「都庁 2020 アクションプラン」の更新を行った。更新した「都庁 2020 アクションプラン」に基づく主な取組内容と実績は、前述のミティゲーションに示すとおりである。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「都庁 2020 アクションプラン」作成の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆Step1：対応可能な対策から取組項目の抽出 (2019年1月25日公表) ◆Step2：具体的な取組内容・規模・実施期間の設定 (2019年4月12日公表)(2019年11月18日更新)(2020年2月21日更新) (2021年7月14日更新) ◆Step3：取組推進の部署等と、実施の推進・確認方法の決定 (2019年7月1日公表)(2019年11月18日更新)(2020年2月21日更新) (2021年7月14日更新) </div> <p>出典：「「都庁 2020 アクションプラン」作成の流れ」(2022年3月5日参照 東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ)ほか https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/taikaijyunbi/torikumi/yusou/tocho2020actionplan/index.html</p>																		

2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

ア. 予測した事項

(ア) 大会開催中の交通の状況

大会開催中は、選手等の関係者の輸送のため、都内を始めとした高速道路や一般道路における所要時間が長くなる箇所、時間帯が生じることが考えられた。

このため、選手等の大会関係者を輸送する関係者輸送ルートであるオリンピック・ルート・ネットワーク（ORN）及びパラリンピック・ルート・ネットワーク（PRN）は、市民の生活や都市活動に与える影響も含めて考慮して高速道路を主として設定された。

観客・大会スタッフの輸送については、公共交通機関（鉄道）を前提に、徒歩圏内に鉄道駅がない又は遠い場合等は、シャトルバスも含め計画した。

東京都、国及び組織委員会では、交通混雑緩和に向けた交通需要マネジメント（TDM）の取組を「2020TDM 推進プロジェクト」として推進し、大会開催中は、交通需要マネジメント（TDM）のほか、TDM の効果等を踏まえ、日にち・時間・場所・競技を特定した通行規制等の交通システムマネジメント（TSM）を実施した。これらの交通需要マネジメント（TDM）や交通システムマネジメント（TSM）については、2019年（令和元年）の試行の結果を踏まえた追加対策の検討、大会時に向けた交通マネジメント改善策の検討等を行った。

また、自動車の効率的利用などによる道路交通の混雑緩和や、鉄道などの公共交通機関も含めた交通需要マネジメント（TDM）における取組を促すため、説明会の開催や広報活動による情報発信等により、東京都と組織委員会が連携して企業・個人に働きかけを行った。

これらの取組を受けて、大会期間中の広域の交通量は、高速道路で13%の減少、一般道で6%の減少となった。

首都高速道路では、TSMの実施により、朝のピーク時の本線車線規制や夕方のピーク時の入口閉鎖等が行われた区間があり、本線料金所通行制限やJCT方向別規制、本線車線規制の実施箇所周辺で渋滞の発生がみられたが、2019年と比較した平日の渋滞損失時間は、約8割の減少がみられた。

都内の一般道についても、朝夕ピークにおいて、首都高の入口閉鎖付近や、関係者輸送ルートを迂回する道路など一部の区間で渋滞がみられたが、2019年と比較した渋滞長時間は減少する傾向がみられた。

これらのことから、予測結果と同様に、東京2020大会に係る円滑な輸送を実現しつつ、大会開催中の都市交通への影響を極力低減する取組は行われたものとする。

(空白のページ)